

## 薬剤師の卒後自己研鑽および臨床研究に関する調査

現在、薬剤師の対物業務の効率化や対人業務の充実が求められています。限られた人的資源の中で対物業務を効率化するには、ICT や AI の利活用、調剤機器の導入、体制整備などが考えられ、従来の学部教育では学ばない新しい知識・技術の修得に取り組む必要があります。本調査では、こうした時代の様々なニーズに応えるため、卒業後の薬剤師がどのように自己研鑽\*を行なっていくかを調査します。さらに、薬剤師が時代のニーズや社会の要請に即応し、地域社会に貢献できる資質や能力を身につけるために、学部教育に何が求められているのかについても調査します。

本調査は個人を特定できる内容がアンケート内容には含まれず、ボランティアとなります。アンケート調査に協力しなくても不利益になることはありません。また、匿名での調査のため、アンケート回答後に内容を撤回したくても個人を特定できないため、撤回できません。上記調査の趣旨をご理解いただき、ご賛同いただける方は、アンケートにご協力をお願いいたします。ご不明な点がございましたら、武田香陽子 ([takeda-ka@hus.ac.jp](mailto:takeda-ka@hus.ac.jp)) までご連絡ください。

同意する  同意しない

\*本調査研究において、自己研鑽とは、仕事・業務において「自分の技術や知識を鍛え、高め、磨く」行為や状態のことで、学問や研究など自分の専門分野を深く極め、自己の向上を促進することを指します。

### Q1 勤務年数

1 1-5年 2 6-10年 3 11-15年 4 16年以上

### Q2 職場はどちらですか？

1 薬局 2 病院

### Q3 教育課程

1 4年制薬学教育 2 6年制薬学教育

### Q4 専門薬剤師、認定薬剤師、博士 (Ph.D.) などの資格をお持ちですか？ (複数回答可)

1 なし 2 専門や認定の取得のため現在勉強中 3 専門薬剤師 4 認定薬剤師

5 専門薬剤師と認定薬剤師 6 博士号 (Ph.D.)

### Q5 あなたは薬剤師の学部教育(6年制薬学教育)の薬学教育モデル・コア・カリキュラムが2024年に改訂されることを知っていますか？

1 知らない 2 知っている

### Q6 薬剤師の社会に求められるニーズが変わっているのを感じていますか？

1 全く感じない 2 感じない 3 あまり感じない 4 少し感じる 5 感じる

6 かなり感じる

### Q7 薬剤師の仕事として、対物業務を効率化し、対人業務を充実させる必要性を感じていますか？

- 1 全く感じない 2 感じない 3 あまり感じない 4 少し感じる 5 感じる  
6 かなり感じる

Q8 Q7その理由を記載ください。

( )

(自己研鑽について)

Q9 学生時代、日々コツコツと課題以外の内容を自主的に自己学修していましたか？

- 1 全くしていなかった 2 してなかった 3 あまりしていなかった 4 少ししていた  
5 していた 6 かなりしていた

Q10 あなたは薬剤師として自己研鑽は必要と思いますか？

- 1 全く必要と思わない 2 必要とは思わない 3 あまり必要とは思わない  
4 少し必要と思う 5 必要と思う 6 かなり必要と思う

Q11 1週間の間に薬剤師業務に関する自己研鑽(自己学修)の時間はどのくらいですか？

- 1 0時間 2 1-3時間 3 4-6時間 4 7-9時間 5 10時間以上

Q12 あなたは常に薬剤師として自己研鑽していますか？

- 1 全くしていない 2 していない 3 あまりしていない 4 少ししている  
5 している 6 かなりしている

Q13 あなたは何について自己研鑽(学修)していますか？(Q11で1.2以外の方)

(学部教育の内容)

- A-1 学部で学んだ物理、化学の復習
- A-2 学部で学んだ生物、薬理の復習
- A-3 学部で学んだ病態、薬物治療の復習
- A-4 学部で学んだ法規の復習
- A-5 学部で学んだ薬剤の復習
- A-6 学部で学んだ衛生の復習
- A-7 学部で学んだ実務の復習

(卒後の専門的知識や専門性の内容)

- A-9 新薬について
- A-10 新しい薬物治療やガイドラインについて
- A-11 専門薬剤師や認定薬剤師を取得のための内容について
- A-12 博士(Ph.D.)取得のための内容について
- A-13 統計について

(管理・マネジメントに関わる内容)

- A-14 医薬品管理・流通について
- A-15 新しい感染症や希少疾患について
- A-16 人や組織のマネジメントについて

- A-17 経営について
- A-18 診療報酬や保険について
- A-19 法律や規制について  
(時代のニーズに応じる内容)
- A-20 ICT、AIについて
- A-21 在宅医療について
- A-22 介護について
- A-23 地域包括ケアについて

(その他)

- A-24 ファシリテーションについて
- A-25 コミュニケーションについて
- A-26 発表やプレゼンテーションについて
- A-27 論文を書くことについて
- A-28 英語・手話など言語について
- A-28 その他 ( )

- 1 全くしていない 2 していない 3 あまりしていない 4 少ししている  
5 している 6 かなりしている

Q14 どのような心構えで自己研鑽をしていますか？最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

- ① 自分で機会を探して、自身に必要な学修内容について実施
- ② 職場から得られる情報を自主的に選択し、職場以外の学修でも実施
- ③ 職場の指示あるいは職場で実施されるものについて実施
- ④ 気が向いた時に開催される学修内容について実施
- ⑤ 業務で課題が見つかった時に必要に応じて実施
- ⑥ 職場で強制される以外しない
- ⑦ 職場で強制されてもしない

Q15 どのような場やツールで自己研鑽をしていますか？最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

- 1 自宅で自身が購入した本や Web 検索
- 2 卒業した大学の生涯学習センターの講習会
- 3 卒業した大学以外の生涯学習センターの講習会
- 4 職場で開催される勉強会
- 5 製薬会社（卸業者）などの勉強会
- 6 薬剤師会、病院薬剤師会などの医療団体の勉強会
- 7 学会への参加

- 8 大学（社会人大学院や研究生制度）への通学
- 9 大学との共同研究
- 10 企業（製薬会社以外、IT など）の勉強会
- 11 自分が必要とする領域を検索し、見つけた勉強会
- 12 その他（                      ）

Q16 自己研鑽をするために、学部教育でさらなる教育が必要であったと思いますか？

- 1 全く必要ない
- 2 必要ない
- 3 あまり必要ない
- 4 少し必要
- 5 必要
- 6 かなり必要

Q17 Q15 で 1.2 以外、学部教育でどんな教育が必要であったと思いますか？

- 1 全く必要ない
- 2 必要ない
- 3 あまり必要ない
- 4 少し必要
- 5 必要
- 6 かなり必要

- ① 自己をふり返る力
- ② 自己の問題点や課題を見つける力
- ③ 問題点や課題を解決するための計画を立てる力
- ④ 問題点や課題を解決するために計画を実行する力
- ⑤ 行動の結果、ふり返る力
- ⑥ ①-⑤を繰り返す能力
- ⑦ その他（                      ）

（臨床研究について）

Q18 臨床研究は薬剤師に必要だと思いますか？

- 1 全く必要とは思わない
- 2 必要とは思わない
- 3 あまり必要とは思わない
- 4 少し必要である
- 5 必要である
- 6 とても必要である

Q19 臨床で課題を見つけて研究に発展させることはありますか？

- 1 全くない
- 2 ない
- 3 あまりない
- 4 たまにある
- 5 ある
- 6 常にある

Q20 臨床で課題を見つけて研究に発展させたいと思うことはありますか？

- 1 全くない
- 2 ない
- 3 あまりない
- 4 たまにある
- 5 ある
- 6 常にある

Q21 臨床で課題を見つけて研究に発展させるためにサポートは必要ですか？

- 1 全く必要ない
- 2 必要ない
- 3 あまり必要ない
- 4 少し必要
- 5 必要
- 6 かなり必要

Q22 臨床で課題を見つけて研究に発展させるには、どのような方の理解やサポートが必要ですか/でしたか？

- A 家族の理解・サポート
- B 職場の上司の理解・サポート
- C 職場の同僚の理解・サポート
- D 大学学部教育でのゼミ教員による研究指導

- E 大学卒業後教育における担当教員の研究指導
- F 学術団体の研究サポート
- G 金銭的サポート（家族、組織、団体含めて）
- H 多職種の協力体制（採血など含む）や理解・サポート
- I 医療団体（薬剤師会、病院薬剤師会）のサポート

- 1 全く必要ない 2 必要ない 3 あまり必要ない 4 少し必要 5 必要
- 6 かなり必要

Q23 臨床で課題を見つけて研究に発展させるための障壁はありますか？

- 1 全くない 2 ない 3 あまりない 4 少しある 5 ある 6 かなりある

Q24 Q22 のうち①を回答した方以外、臨床で課題を見つけて研究に発展させるための障壁となっているのはどれですか？

- A 家族の理解・サポート
- B 職場の上司の理解・サポート
- C 職場の同僚の理解・サポート
- D 大学学部教育でのゼミ教員による研究指導
- E 大学卒業後教育における担当教員の研究指導
- F 学術団体の研究サポート
- G 金銭的サポート（家族、組織、団体含めて）
- H 多職種の協力体制（採血など含む）や理解・サポート
- I 医療団体（薬剤師会、病院薬剤師会）のサポート
- J 研究の仕方が分からないため、障壁が分からない
- K その他

- 1 全く障壁ではない 2 障壁ではない 3 あまり障壁ではない 4 少し障壁である
- 5 障壁である 6 かなり障壁である

Q25 臨床研究をするために、学部教育でさらなる教育が必要であったと思いますか？

- 1 全く必要ない 2 必要ない 3 あまり必要ない 4 少し必要 5 必要
- 6 かなり必要

Q26 Q25 で 1.2 以外の方、学部教育でどのような教育が必要であったと思いますか？

- 1 全く必要ない 2 必要ない 3 あまり必要ない 4 少し必要 5 必要
- 6 かなり必要

- 1 問題点・課題を発見する力
- 2 発見した問題点・課題を解決するための論文の検索スキル
- 3 論文を読む力（和文・英文問わず）
- 4 必要に応じてリサーチクエッション（仮説）を立てるスキル
- 5 リサーチクエッションを解決するための方法を検討するスキル
- 6 方法を実行し、結果を出すスキル

7 結果の考察力

8 研究限界点を把握する力

9 1-9を継続する力

10 その他（ ）

Q27 世界では薬剤師の免許は更新制が基本ですが、将来、日本の薬剤師の免許を更新制にすることが薬剤師の質の担保のために必要だと思いますか？

- 1 全く必要ない 2 必要ない 3 あまり必要ない 4 少し必要 5 必要  
6 かなり必要

お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。